



①小樽沖を航行する商船「真岡丸」(小樽市総合博物館所蔵) ②真岡丸船内に残されていた機銃弾を手にする田中さん。左側には砲弾が横たわる(今井さん提供)

# 大量の砲弾 船底に散乱



## 戦後に小樽沖沈没「真岡丸」調査

【小樽】水中写真家、田中正文さん(四七)胆振管内洞爺湖町が進めていた小樽沖に沈む商船「真岡丸」(一、二一九ト)の潜水調査が三十日、終了し、船底に大量の砲弾や機銃弾があるのが確認された。

田中さんは太平洋戦で砲弾などを同市高島争で海底に沈んだ船な沖で投棄中、誤爆で沈どの調査を続けてお沈没。八十人以上が亡り、昨年八月、NPOになった。

「水中文化財環境調査協会」を設立した。

調査で、田中さんは同協会理事の今井昌さした三隻の引き揚げ船後、初の本格調査とな(五)札幌市らとの調査にも取り組む考った。

真岡丸は一九四五年

材前後に沈む真岡丸のた。十二月、進駐軍の指令 船内外をビデオと写真

で撮影した。

田中さんによると、機銃弾の弾倉、航空機搭載用の爆弾などが船底部に散乱しており、マストやスクリューも確認できたという。

田中さんは「国の調査は十分なされず、八十人余りの遺骨が取り残されたまま。今回の調査で当時を振り返り、少しでも慰めになれば」と語った。

さらに将来、四五年八月に旧ソ連軍の攻撃に遭い、留萌沖で沈没した三隻の引き揚げ船の調査にも取り組む考た。

# 遺骨残されたまま